

住の江や和泉の街の七まちの

鍛冶の音きく菜の花の路

歌 意

住の江（住吉大社を中心とする一帯の地域）よ。和泉の街の七まちあたりに響く鍛冶の音が聞こえてくる菜の花の路がなつかしく思い出されます。

掲出歌集 『常夏』 明治41（1908）年7月
初出 「明星」 明治39年11月号（晶子28歳）

- 所在地
 (株) 水野鍛錬所
 (堺区桜之町西1丁1番27号)
 阪堺電車「綾ノ町」駅、「高須神社」駅から150メートル、
 紀州街道沿い
- 建 立
 平成22年12月4日
 水野鍛錬所当主 水野康行
- 書 吉田朝光
- 連絡先 (株) 水野鍛錬所
 072-229-3253



晶子の歌「古さとの小き街の碑に彫られ百とせの後あらむとすらむ」のとおり、百年後の古さとの小さき街・堺の「七まぢ」に、水野鍛錬所の当主が歌碑を建立した。

水野鍛錬所は、鉄砲の中でも大筒を製造したことでも知られる芝辻理右衛門の屋敷があったあたりであり、この辺りは「七まぢ」と呼ばれている。碑に刻まれた歌には、この地名がうたいこまれており、晶子にとっても身近なまぢであった。

『七まぢ』という地名が入っている歌碑をこのまちに建てて、誰でもいつでも親しんでもらえるように」という当主の思いから、歌碑は紀州街道に面した水野鍛錬所の入口の横に建立された。碑の形も、当所の事業である庖丁をかたどった斬新なものになっている。